



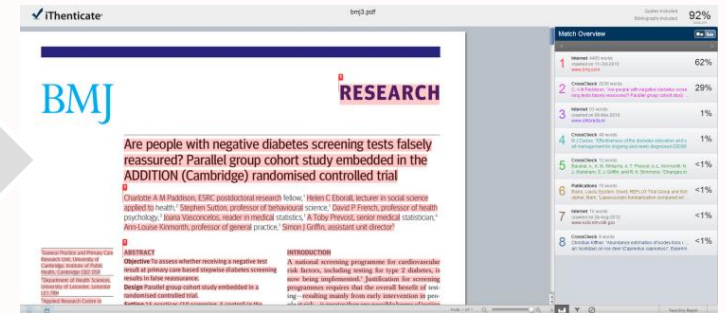
iParadigms社iThenticateご説明資料
2014年5月吉日

iGroup Japan Masaki Watanabe (渡邊 正樹)

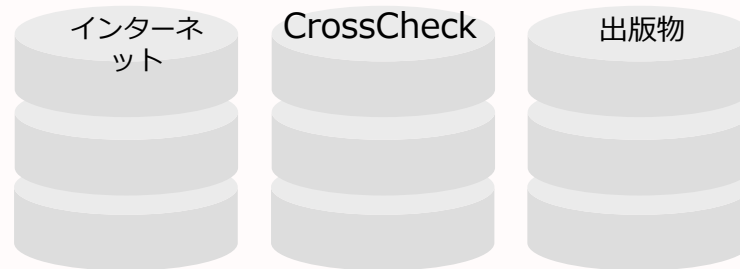
iThenticate



デジタル指紋



iThenticateは 研究者、出版社や研究機関に不正行為を効果的に知らせる専門的な検出ソフトウェアです。



iThenticateは学術コンテンツや億単位のウェブページといった膨大なデータベースをスキャンし、重複する内容をハイライトで表示します。

デジタル指紋はマルチ言語でAIによるテキスト比較を行う学術研究されている技術です。

iThenticateのデータベース

iThenticate Database Content

STM Publishers:

38 Million

Journal articles, conference proceedings and books via CrossCheck powered by iThenticate from 530+ leading scientific, technical and medical (STM) publishers, including:

- American Chemical Society
- American Institute of Physics
- American Physical Society
- Elsevier
- IEEE
- Institute of Physics
- Lippincott Williams & Wilkins
- Nature Publishing
- Ovid
- Oxford University Press
- Sage Publications
- Springer
- Taylor & Francis
- Wiley Blackwell

Content Partners:

92 Million

Online and offline subscription content and research titles from 30 leading aggregators, databases and content providers, including:

- ABC CLIO
- Cengage Learning
- EBSCOHost: 2.7m periodicals, biographies, brochures, encyclopedias, magazines, journals, books, and abstracts
- Emerald Journals
- Gale: 86m articles
- Pearson, McGraw-Hill and Wiley: 2,000+ academic textbooks
- ProQuest: 300,000+ theses and dissertations
- PubMed/MedLine: 1.4m abstracts and citations; medical resources
- SAGE Reference: 160+ encyclopedia titles

Internet:

45 Billion

iThenticate's proprietary Internet crawler is comparable to major search engines. Archived back nearly a decade, iThenticate currently crawls 10 million web pages per day.

剽窃防止のための学術界の取り組み

-学術出版で1つの大きなデータベースを構築

最終的な出版物からの剽窃排除 = 出版物のクオリティの向上



CROSSCHECK MEMBERS

ACTA Press

American Academy of Pediatrics

The American Association for the Advancement of Science (AAAS)

American Association on Intellectual and Developmental Disabilities

American Diabetes Association

American Geophysical Union

American Institute of Physics (AIP)

American Physical Society (APS)

American Psychological Association (APA)

American Society for Microbiology

American Society of Neuroradiology (ASNR)

American Society of Plant Biologists

American Thoracic Society

Ammons Scientific

Annual Reviews

Association for Computing Machinery (ACM)

Australian Academic Press

BioScientifica

BMJ Publishing Group



2013年1月現在

312出版社

ジャーナル/会議議事録/
Books含む79538タイトル

なぜエルゼビアが、900万件の論文をチェックの対象にしているのか？

Elsevier to Contribute 9 million Articles to CrossRef

Ready to implement CrossRef's plagiarism detection software after successful pilot

Amsterdam, 23 June 2008 – Elsevier, the leading publisher of science, technology and medical information announced today that it will implement CrossRef, the plagiarism detection service offered by CrossRef in collaboration with iParadigms. With plagiarism a growing problem for journal editors, Elsevier has invested in CrossRef to develop, pilot and implement, a single database of published articles enabling publishers to easily verify the originality of submitted and published work.

After a successful six months pilot with eight leading publishers, Elsevier is now in the process of integrating CrossRef into its editorial workflows as part of its efforts to support the peer review process and assist the scientific community in all aspects of publishing ethics. Elsevier will contribute nearly nine million journal articles to the CrossRef database, which is launching with a commitment of over 20 million journal articles from publishers including the Association for Computing Machinery, American Society of Neuroradiology, BMJ Publishing Group, Elsevier, Institute of Electrical & Electronics Engineers, International Union of Crystallography, The Journal of the American Medical Association, Nature Publishing Group, Oxford University Press, Sage, Informa UK (Taylor & Francis), and Wiley Blackwell.

"By creating a pooled database of articles from multiple publishers and tested tools, we can provide assistance to the scholarly community on an unprecedented scale," commented Martin Tanke, Elsevier's Managing Director of S&T Journal Publishing, "CrossRef has taken the principles of publisher collaboration far beyond reference linking. CrossRef, combined with our recently launched Publishing Ethics Resource Kit and full journal membership in COPE (Committee on Publishing Ethics) further reinforce our commitment."

チェックして%を提示することとチェックの対象にすることは違います。
論文をチェックの対象にすることで、既存の著者の著作権が守られるからです。

チェックのDBに入れるだけでは、%等は表示されません。



あくまで新規の著作物に対して搭載されているDBからチェックされます。

出版社のiThenticateの利用について

~75,000 scholarly journals in the CrossRef ...

25,000学術誌が iThenticate (1/3)を利用 -- CrossRef

estimates that this will be 1:2 by next year

2014年予想 $\frac{1}{2}=37500$ 学術誌が利用？

Contents quality

インパクトファクタの高い雑誌がiThenticateのデータベースに含まれております。 :

89% of the top 100

81% of the top 500

78% of the top 5,000

ちなみにIEEEは2012年11月より、すべての雑誌の編集者に対して

Crosscheckを自由に利用可能とした。

会議議事録についてもできる限りCrosscheckを利用するように推進。

剽窃防止のための学術界の取り組み（日本）：

JST(理事長 中村 道治)は、電子ジャーナル発信プラットフォーム「J-STAGE^{注1)}」に新しいシステムを導入し、5月1日(火)から全面リニューアルします。さらに、J-STAGEを通じて学協会が発行する学術論文誌に、論文剽窃(盗用)検知ツール「CrossCheck^{注2)}」を導入します。

J-STAGEは、1999年の運用開始から13年が経過し、これまでも2003年にシステムのリニューアルを行ってきましたが、ユーザーインターフェイスや機能面を中心にさらなる改善が必要でした。そこでJSTはユーザビリティの向上と国際発信力のさらなる強化を目的として、2009年から新システムを開発してきました。

新しいシステムでは、掲載する論文情報の形式を国際標準のXML形式(JATS)フォーマットに移行、これまで別々のサイトであったJ-STAGEとアーカイブサイト「Journal@rchive^{注3)}」を統合し、デザインやインターフェイスを一新、論文の管理機能を強化しました。これにより、日本国内の学協会が発行する論文情報の汎用性・再利用性が向上し、利用者にとっては19世紀までさかのぼる貴重な論文を含め、総計約230万記事(2012年4月時点)を1つのサイトで検索・閲覧できるようになります。

この他にも、新システムにあわせ、XML形式でのデータ作成ツールや投稿審査システムの改善などを行い、学協会の作業負担を軽減しています。

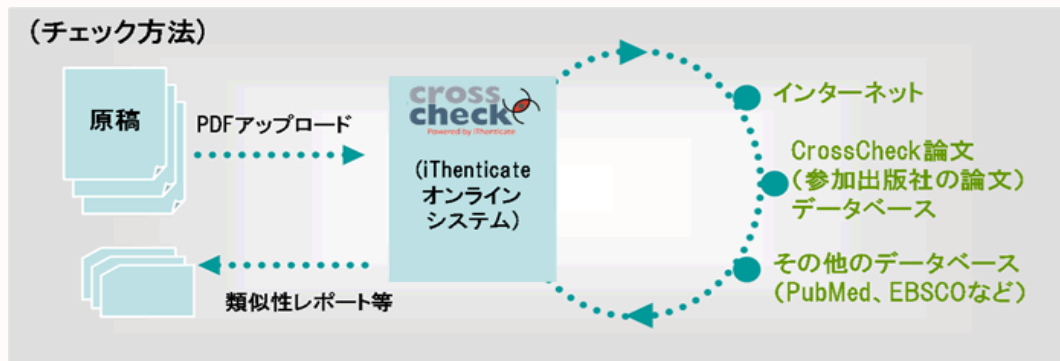
また、近年、学術論文誌ではインターネットを通じて閲覧のできる電子ジャーナルが広く普及し、論文の電子投稿も増え、デジタル化が進んでいます。論文のデジタル化は論文に含まれる情報の新たな再利用を可能にしていますが、一方で、複製・転写など論文のテキストやデータの再利用も容易にできるため、盗用などの不正行為のハードルを下げているという側面も持ち合わせています。実際に、学術誌の編集過程で二重投稿や盗用などの増加が顕在化しており、学術情報流通において国際的な問題になっています。

同様の問題がJ-STAGEを利用する学協会からも指摘されており、JSTでは、英文の論文で世界的に広く用いられている論文剽窃(盗用)検知ツール「CrossCheck」を導入し、学協会でも学術誌の編集プロセスで利用できるようにしました。

J-STAGEでは、電子ジャーナルや論文の機能面の向上によるさらなる発信・流通の促進と同時に、今回のCrossCheck導入をはじめとして、学協会における編集機能の強化と日本の学協会発行論文のさらなる品質向上をサポートしていきます。

ホームページURL: <http://www.istage.jst.go.jp/browse/-char/ja/> 5月1日(火)午前0時

論文剽窃検知ツール「CrossCheck」の導入概要 -Jstageの例



日本の学協会のCross checkの参加について

2012年5月よりJ-stage配下の手をあげた学会

Cross checkに参加 = フルテキストデータをすべてiParadigms社に提供

2013年5月現在、おおよそ30数学会参加、50学術雑誌以上がCross checkを利用

Open Access化に伴う問題

博士論文：

平成25年4月1日施行

博士論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表を「インターネットの利用により公表」することとする。

オープンアクセス化の推進について：パブリックコメント

- ・ 閲覧希望者にとってアクセスが容易となり、利便性の向上が見込まれる。
- ・ 大学や公的研究機関における機関リポジトリの構築の推進や、教育研究成果の電子化による体系的保存やオープンアクセスの促進につながるものと期待。
- ・ インターネットの利用による公表により、**剽窃**が容易になることが懸念される。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/gijiroku/attach/1330545.htm

科研費：

③ 3. 科研費等競争的資金による研究成果のオープンアクセス化への対応について

a. オープンアクセス化の必要性

○ 学術研究の成果は、そもそも人類共通の知的資産として広く共有されることが望ましい。また、特に、公的助成を受けた研究成果については、広く国民に知らされ、利活用されるべきものである。そのため、ジャーナルに掲載された論文が出版者側の求める高額な購読料や著作権ポリシーにより、閲覧が難しくなる状況は望ましくないとし、利用者側の費用負担を伴わず制約なく研究成果に接することを可能にするオープンアクセス化を進めるべきという考えが世界的な流れになっている。

第4期科学技術基本計画においても、教育研究成果の収集、オープンアクセス化を推進すべきとされており、積極的に対応する必要がある。

それでも論文盗用は早く見つける方が組織にとって ダメージが少ない。。。。

ドイツのアンネッテ・シャバーン教育・研究相が2013年2月9日、辞任を表明した。デュッセルドルフ大学が5日、同氏の33年前の博士学位請求論文に盗用があったとして博士号の剥奪（はくだつ）を決定。

ハンガリーのシュミット大統領（69）は2013年4月2日、92年の博士論文に盗用があったとの疑惑を受け、辞任すると発表した。シュミット氏は先月29日、大学側の調査によって博士号を剥奪されていた。

台湾国防相また辞任 論文盗用で引責

2013/8/7 1:09

小 中 大 保存 印刷 リプリント

【台北＝共同】台湾の楊念祖国防部長(国防相)は6日記者会見し、かつて発表した論文に他人の著作からの盗用があったとして引責辞任したことを明らかにした。7月に徴集兵が軍内で虐待死した事件で前任の部長が引責辞任し、楊氏は今月1日に就任したばかり。軍や政権への批判がさらに高まるのは必至だ。

楊氏によると、2007年に出版された本に収容された論文で、中国の雑誌に発表された外国人学者の著作を盗用した。

部長職は当面、次官が代理を務めるといふ。

欧州

政治家殺すに拳銃は不要、博士論文あればいい
連邦教育大臣の辞任でドイツ政界に激震走る

2013.03.21 (木) 川口マーン 専美・プロフィール

最後に、

剽窃のチェックの意義は、将来の研究活動のためのものです。過去を振り返るためのものではありません。大多数の研究者、先人の業績を尊敬し、大多数の研究者の正当な努力を、守るツールとしてお考えください。

また、問題は、学术界全体の問題であり、教育の問題でもあります。出版界や助成金を制御する機関だけでも、取り締まることができません。出版界、研究界、大学教育等、を介し、初期の問題を防ぐことにより、将来深刻な不正へ繋ぐ道を防ぐことになるのです。将来の公正な学術研究につなげるために、是非、早めにチェックしてください。

剽窃に対応した、これらのサービス及び技術は進歩します。また、いわゆる“不正”をすると見つかります。今は見つからないかもしれませんが、将来見つかることがあります。

これらの技術と施設としてどのように付き合っていくか、また自己剽窃やMethodsの剽窃、何をもって剽窃と判断し、何をもって剽窃として判断しないか、これらの問題が発生した場合の対処、グレーな部分を明確化するとともに、これらの技術を運用していくためのノウハウを蓄積していくべきだと思います。

また、幸いiParadigms社は書誌情報とURLがあれば、指定サイトをクローलさせます。自分の研究成果を他者に対して、また世界中の同様の研究を行う研究者たちに対して、自分たちで守っていく必要があるかと思います。その意味ではデジタル時代の知的所有権の新しい防御法になるのかもしれませんが。



QUESTIONS?

iGroup Asia Pacific Japan/アイジャパン株式会社

セールスマネージャー
渡邊 正樹

東京都千代田区内神田1-5-16
アルテ大手町9F

Tel: 03-5577-4899

Fax: 03-5577-4809

E-mail: masaki@igroupjapan.com

